資料２

子供の事故防止に向けた取組の推進について

平成28年6月7日
消費者庁消費者安全課

子供の事故の現状

〇子供の事故によって2014年に371人が死亡（14歳以下の子供。出典は人口動態統計）
〇事故の多くは、消費者が商品・役務を利用していた際の消費生活上の事故。

⇩

子供の事故防止には、保護者等への啓発、安全な製品の普及の両面が重要

子供の事故死の内訳（2014年）

死因	件数	主な消費生活上の事故（以下は例示）
交通事故	115	自転車や自動車を利用中の事故
窒息	114	食品・玩具等の誤えん、布団での窒息
溺水	80	浴槽での溺水
転倒・転落	25	建物からの転落
火への暴露	23	ライターの火遊びによる火災
その他	14	
合計	371	

最近の死亡事故の事例

マンション転落事故(大阪市)
【事故日】平成28年4月10日
【被害者】入学直後の女児（6歳児）
【概要】リビングでテレビを見ていた
⇒子供部屋からベランダに出た
⇒高さ1mの柵を乗り越え、転落

おんぶ中の自転車事故(国分寺市)
【事故日】平成28年5月6日
【被害者】生後7ヶ月の乳児
【概要】道路横断中に車と接触し転倒
⇒乳児が頭を強く打って死亡
（ヘルメットなく、抱っこ紐でおんぶ中）

子供の事故防止の取組の現状

現状　○自治体・NPO・事業者の中には、先進的な取組もみられる

自治体の啓発

事故体験ひろば
（姫路市保健所）

子供の事故を疑似体験する施設

NPOの啓発

渋谷で啓発動画
（ Safe Kids Japan ）

啓発冊子
（ Cキッズネットワーク）

冊子「成長とともに
危ない！は変わる」

事業者の対策

子供の足掛かりの無い柵
（よじのぼりによる転落事故に配慮）

課題

○今後は、優良事例の横展開が課題。
（市区町村のうち、事故防止対策を実施している割合は５７％にとどまる（※））

○関係者が多く、国による体系的・効果的な支援・情報提供が必要

事業者団体	製品メーカー、食品メーカー、小売店、サービス業
地方公共団体	消費者行政部局、母子保健部局、教育・保育施設関係部局
地域の関係者	事故防止のNPO、消費者団体、医療機関、PTA等

（※）平成25年度厚生労働省調べ

関係省庁連絡会議の立ち上げ

〇各省庁が、所管分野ごとに子供の事故情報や事故対策の情報を収集・保有
⇒関係省庁の情報共有が課題
〇子供の事故の体系的な分析、関係者の取組を効果的に推進することが重要
⇒本年6月上旬に、子供の事故防止に関する関係省庁連絡会議を立ち上げ

様々な情報の共有が重要

事故情報

製品起因の事故	消費者庁
人口動態統計	厚生労働省
救急搬送・火災	消防庁
警察が確認した情報	警察庁
各所管業界の事故	各省

啓発活動の実施状況

消費者教育	消費者庁
母子保健での啓発	厚生労働省
製品安全教育	経済産業省

事業者等の対策の実施状況

各業界の安全基準	各省
キッズデザイン表彰	経済産業省　等
各種ガイドライン	各省

連絡会議構成員（課長級）

省庁名	構成員
消費者庁	消費者安全課長（議長）
消費者庁	消費者教育・地方協力課長
内閣府	子ども・子育て本部参事官 （子ども・子育て支援担当）
警察庁	刑事局捜査第一課長
総務省消防庁	総務課長

省庁名	構成員
文部科学省	初等中等教育局健康教育・食育課長
厚生労働省	政策統括官付社会保障担当参事官
厚生労働省	厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長
農林水産省	大臣官房参事官（消費・安全局消費者行政・食育課）
経済産業省	商務情報政策局製品安全課長
国土交通省	総合政策局安心生活政策課長

関係省庁連絡会議の具体的な取組予定

関係省庁の協力を得て、消費者庁が子供の事故防止に資する情報を集約・整理

①事故情報の分析・共有

○統計的な分析（人口動態統計個票の入手・分析）
○事故事例の分析（医療機関ＮＷ、消防・警察の情報の収集・分析等）
○消費者意識調査の実施

②取組事例の共有

○事業者の取組（キッズデザイン受賞作品等）
○NPO等の取組（出前講座や啓発資料作成等）
○地方公共団体の取組（地方消費者行政推進交付金先駆的プログラム活用事例等）
○国の取組（法令、ガイドライン、事故情報のデータベース等）

分析結果の公表

啓発資料の作成

取組事例集の作成

関係省庁の協力を得て、関係者に対し、事故防止対策の推進を要請

関係省庁が連携した啓発活動の推進

地方公共団体
（消費者行政部局、母子保健部局等）

○啓発活動の実施　等

地域の関係者
（医療機関、ＮＰＯ、ＰＴＡ等）

○啓発活動の実施　等

事業者
（メーカー、サービス業等）

○安全な製品の普及
○安全対策の推進

関係省庁

○イベントへの参加
○キャンペーン　等

今後のスケジュール

第１回会議（２８年６月上旬頃）問題意識の共有
今後の情報共有の在り方
関係者による啓発・安全対策の推進方策

↓

第２回会議（２８年９月頃）　関係省庁から取組事例等の報告
消費者庁の分析結果の報告

↓

第３回会議（２９年１月頃）　啓発資料・取組事例集の取りまとめ
（同日付で関係者宛に要請文を発出）

↓

毎年１～２回程度開催し、対策の進捗管理

情報の分析・事例集のイメージ（誤えんによる窒息事故の例）

統計分析

商品分類	死亡件数
玩具	○件
包み・袋	○件
飴	○件
ミニトマト	○件
ピーナッツ・豆類	○件

窒息事故に配慮された製品

ペンのフタに通気孔となる穴
⇒窒息事故の防止に有効

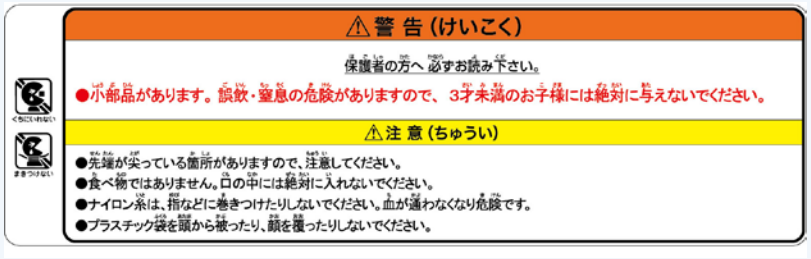
個別の事故事例の分析

＜例＞玩具の誤えんによる窒息事故

・2歳児が苺型の木製玩具を口に入れて遊んでいた際に、喉に入り窒息して死亡
・製品に気道を確保する穴等の安全対策無し
・表面が滑らかな半円球形のため詰まった際に取り出しにくい構造

窒息事故に関する注意表示

玩具の注意表示の例（ST基準）



情報の分析・事例集のイメージ（溺水事故の例）

統計分析

年齢別	ベビーバス	浴槽	プール	海・川
0歳児	○件	○件	○件	○件
1歳児	○件	○件	○件	○件
2歳児	○件	○件	○件	○件
・	○件	○件	○件	○件
・	○件	○件	○件	○件

小学生用の啓発資料

個別の事故事例の分析

＜例＞幼稚園プールでの溺水事故

・幼稚園のプールで3歳児が溺死

・プール活動中の園児の監視体制に空白が生じたために発見が遅れた

⇒プールの監視と指導は担当者を分けるべき

ベビーバスの注意表示

⚠ WARNING

Drowning Hazard: Babies have **drowned** while using infant bath tubs.

- **Stay** in arm's reach of your baby.
- Use in **empty** adult tub or sink.
- Keep drain **open**.

情報の分析・事例集のイメージ（建物からの転落事故の例）

統計分析

ベランダの転落●件

転落要因	件数
室外機に登った	○件
花壇に登った	○件
柵をよじ登った	○件
柵の隙間を抜けた	○件

窓からの転落●件

転落要因	件数
柵がなかった	○件
ソファーに登った	○件

季節別の件数

事故発生月	件数
1月	○件
2月	○件
3月	○件
・ ・	

個別の事故事例の分析

＜例＞柵をよじのぼって転落

・5歳児がマンション6階のベランダから転落
・横格子の柵（格子の隙間10mm）を、よじのぼって転落したと考えられる

＜例＞網戸をしていた窓から転落

・5歳児が2階の窓の網戸にもたれて座っていたところ、網戸が外れて転落

事故防止に配慮した製品（再掲）

子供の足掛かりの無い柵
（よじのぼりによる転落事故に配慮）